

# 旬の山梨旅行記

あっきー  
(YouTube: AkkyTakemoto)

## 新宿駅～出発まで

---

2011年9月4日午前8時、旅はJR新宿駅の南口コンコースからスタートした。今回は山梨方面へ行く。9月の上旬ということで、山梨では、ぶどうが旬である。そして、ぶどうをアルコール発酵して作るワインも解禁が多い。今回は、旬のぶどうとワインを散策することにする。

今回も利用する交通機関は鉄道であるが、特に重視したのが、JR東日本が首都圏で休日を中心に運行している「ホリデー快速」である。さまざまな種類のホリデー快速が各方面へと運行されており、気軽に利用できる行楽列車である。車両は、特急の車両や豪華な車両が使われており（一部例外あり）、実に多くの家族や旅人の行楽に貢献している列車であるといえよう。今回利用するのが、「ホリデー快速河口湖」と「ホリデー快速ビューやまなし」である。前者は、かつて中央本線で特急列車として運行されていた特急の車両が使われ、後者は、オール2階建てで全席クロスシート（長椅子ではない席）が使われており、快適な移動ができる。

新宿を出る前に、南口の改札内にあるそば、ラーメン店で食事をすることにする。実は、私は、学生時代にここでアルバイトをしていた。当時、メニューにあった鳥の照り焼き丼が私の好物であったが、残念ながらメニューから外されていた。そのため、牛丼セット（500円）を食べた。丼ものに小さめの塩ラーメンがついてくる。



いよいよホームへと降りる。始発駅で発車5分前なのに列車が見当たらない。後を振り向くと列車の先頭車が見えた。



## 新宿駅出発

---

新宿駅を出発した。しばらくは、中央線のオレンジ色の電車がたくさん走る区間を走る。

しばらくすると、高架橋を走り始めた。ここ的高架橋は最近できたばかりで、以前は地上を走っていた。通勤時間帯には電車の本数が多くなり、いわゆる「開かずの踏切」が多数あったため、高架化して踏切を解消した。

23区を抜け、武蔵野市に入ると住宅街が車窓を占める。この路線を利用し、都心に通勤する人が多く住んでいるでしょう。通過する各駅ともに高架化と同時にリニューアルされたためがきれいな駅ばかりである。

立川を過ぎると多摩川の鉄橋を渡る。実はここにはとある仕掛けがある。鮭の川登りのための水路が設置されているのである。実は、多摩川が江戸時代から多くの鮭が川登りをしていたが、中央本線を建設することになり、多摩川にも鉄橋がかけられた。その鉄橋の脚が邪魔となり、鮭の川登りに支障をきたすようになったが、十数年前に、川登りができるようにと水路を設置し、これにより、約100年ぶりに鮭が上流まで川を登ることができるようになったのである。当日はあいにく、前日の台風12号の影響で河川が増水しており、水路は車窓から見えなかった。



八王子駅では、修学旅行列車を見かけた。今は修学旅行の定番が新幹線になってしまい、私の中学校の修学旅行も新幹線だったが、新幹線から少し離れたところでは今でも健在である。



## 高尾から先

---

列車は高尾駅を後にした。ここから景色がからっと変わる。今までは町中を走ってきたが、ここからは山中を走る。トンネルも多くなる。列車も、これまでのオレンジ色の電車から青色やクリーム色で電車となる。幼いころから東京に住んでいた人なら、高尾まではなじみがあるが、高尾から先に行くにはちょっとした冒険であると感じる人も多いという。

ここからも仕掛けがある。まず、藤野駅近くでは、進行方向左側の車窓の山にラブレターのオブジェが見える。

そして、四方津では、変わったエレベーターがある。今回の旅の最初の目的地は、この四方津の変わったエレベーターである。



## 四方津

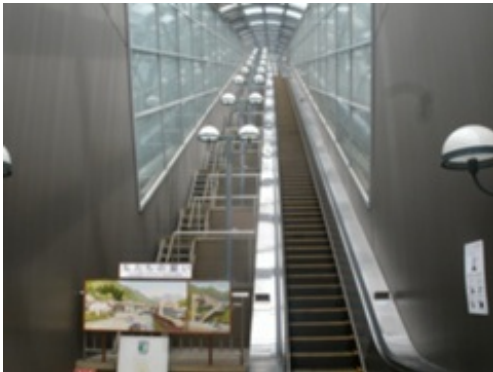
---

四方津駅で最初の「ホリデー快速河口湖1号」を下車した。ここで見物するものは、前のページでも触れた「変わったエレベーター」である。

四方津駅の駅前の丘の上には、「コモアしおつ」というニュータウンがある。駅とニュータウンを短絡する手段としてエレベーターが設置された。もちろん、車や自転車は通れず、徒歩のみでの利用となる。エレベーターといっても、地面に垂直な形で上下に移動するエレベーターではなく、斜めに移動するエレベーターである。エレベーターのカゴには、窓があり、軌道を見ることが可能である。



エレベーターと一緒にエスカレーターも設置されている。運行方向は時間帯によって異なる。今回は、今夏のテーマでもあった「節電」の対策のため、私が訪れたときには動いていなかった。



丘の上のニュータウンに到着した。エレベーターの乗り場の前にはスーパーマーケットがあった。

すぐに、次の列車、「ホリデー快速河口湖3号」が来るため、駅に引き返した。

## 四方津～石和温泉

四方津からは、「ホリデー快速河口湖3号」に乗車する。今回も特急の車両が使われているが、1号のときと違うバリエーションのものだった。車両が1号のときよりも古く、座席も旧式のものだった。しかし、古い車両に乗れて懐かしかった点も感じられた。

大月で30分以上の休憩をし、次の「ホリデー快速ビューやまなし」に乗車する。「河口湖号」は大月から富士急行船に入るが、次の目的地である石和温泉は、中央本線である。そのために乗り換える。

大月で列車を待っている間、少し変わった列車が駅を通過した。これは、「お座敷列車」という列車で、客室内が畳の部屋となっている。これも「ホリデー快速」の一種である。お座敷列車は、主に団体列車に使用されるが、乗り合い列車にも使用されることがある。

いよいよ、「ホリデー快速ビューやまなし」が到着した。前述のとおり、オール2階建て車両である。



大月からは、2階建て車両の2階席に座り、車窓を堪能した。やはり、上から見る景色は最高である。天井近くまで窓はある車両なので、空の景色もわずかながら見えた。また、このあたりからは、ぶどう畑が多くなってくる。いよいよ、フルーツ大国である山梨に来たという実感が湧いた。



列車は石和温泉駅に着いた。いよいよ次の目的地である。

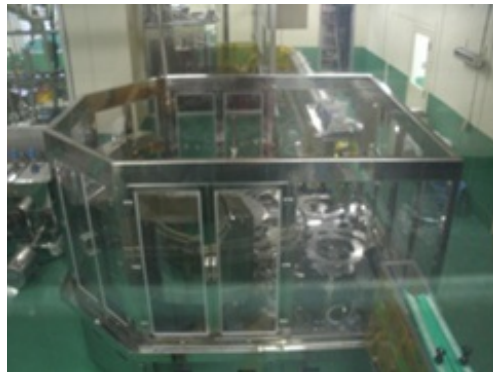
## ワイン工場

石和温泉駅で降りた。次の目的地は、ワイン工場である。モンデ酒造株式会社という会社のワイン工場を目指す。

徒歩10分程度で工場に到着した。訪問者名簿に名前を書き、さっそく工場に入る。本日は日曜日のため、工場は稼働していなかったが、雰囲気は見ることができ、仕組みも学ぶことができた。やはり、広かった。また、ぶどうをアルコール発酵するために使う樽が大量にあったり、畑から運ばれたぶどうが工場の製造過程に初めて入るところも見ることができた。

モンデ酒造のブランドワインが展示されているところもあった。実は、駅で最近売られているカップつきのワインもこの会社が作っている。

お土産屋さんは日曜日でもやっていた。ワインやぶどうジュースが試飲できる他、山梨の他のお土産も売っていた。



上の像は、笛吹権三郎の像である。現在、この地は「笛吹市」と呼ばれているが、この笛吹権三郎が由来である。

## 石和源泉足湯ひろば

---

ワイン工場の次は、石和源泉足湯ひろばに行った。ここには、4種類の足湯と1種類の手湯がある。通常、足湯は無料であるが、ここでは、タオル付きで200円である。足湯には、それぞれ、「わかがえりの湯」などという名前がある。<br>



## 大日影トンネル

石和温泉から普通列車で勝沼ぶどう郷へと向かう。勝沼ぶどう郷では、旧大日影トンネルの遊歩道を散策し、その後ぶどう狩りに行き、さらにその後は、「ぶどうの丘」という観光施設に行く。

最初の目的地は、旧大日影トンネルである。大日影トンネルは、中央本線の開通と同時に中央本線のトンネルとして使用された。単線時代は、上り下りの列車が行き来したが、複線化されてからは、現在遊歩道として整備されているところは下り線となった。１９９５年に新大日影トンネルが完成し、役目を終えた。そして、数年前に遊歩道として整備されたのである。

他に、かつての鉄道のトンネルが遊歩道として整備されているところとして、群馬県の碓氷峠にある旧信越本線がある。

トンネルの入り口は、勝沼ぶどう郷駅から約２００m新宿寄りにある。トンネルの全長は１．３kmである。通行時間は１０時から１５時であり、通行料は無料である。トンネル内には、途中、休憩のためのベンチもあり、また、このトンネルの豆知識の看板もある。<br>



トンネルを抜けると、先にもう一つのトンネルの入り口がある。ここのトンネルは、現在、ワインの倉庫として使われているようである。他にも鉄道のトンネルでワインを保管しているところがある。２０１１年３月１３日の東日本大震災で被災したところだが、岩手県の三陸鉄道にある長大なトンネルでワインが保管されているという。こちらは、まだ現役の鉄道トンネルである。

## ぶどう狩り

---

大日影トンネルのあとは、ぶどう狩りをする。駅まで送迎のあるぶどう園に電話をし、送迎していただいた。

駅から車で5分程度のところにある農園で、ぶどう畑には、様々な種類のぶどうがあった。地元ブランドである「甲州」をはじめ、デラウェア、巨峰などもあった。甲州の旬は9月中旬から下旬ということでまだ早いですが、デラウェアや巨峰はまさに今が旬である。

このようなぶどう畑から午前中に行ったワイン工場にぶどうが運ばれ、そこでワインへと加工されることを実感した。今回は、ワインの製造工程の逆を辿ったようなものである。

ぶどうは思ったよりも、腹持ちがよく、3ふさ食べただけでかなり満腹になってしまった。



## ぶどうの丘

---

山梨県内最後の目的地は、ぶどうの丘である。ここは、ぶどう畑が多い勝沼の丘の上にあることが特徴である。<br>

ぶどうの丘に着いたらまずは、温泉に入った。温泉からの景色は絶景であり、ぶどう畑や民家がたくさん見える。また、晴れた日には、富士山も見えそうである。



温泉を出たあとは、お土産物屋さんを見たり、美術館を見たりした。特にお土産物屋さんでは、本日解禁のワインが展示してあった。また、ワインカレーなどユニークな商品もあった。



## ぶどうの丘～勝沼ぶどう郷駅

勝沼ぶどう郷駅へ戻る。駅までは徒歩20分である。途中、坂を上下したり、細い路地を通ったりと少しハードな行程である。駅に着く直前、かつての勝沼駅のホームの跡が見えた。現在も一部ホームの姿を残し、モニュメントとなっている。説明書きによると、中央本線がこの地に開通したとき、勝沼には駅は設けられなかったが、地元の強い要望により、開通から10年後に勝沼駅が設置された。以後、ぶどうやワインの物流に大きく貢献したのが、この勝沼駅であるため、複線化され、ホームが現在の位置に移ったあとも、旧ホームがモニュメントとして残されている。のちにぶどうの「山地であるということ」をアピールするため、現在の「勝沼ぶどう郷」駅に改称された。



いよいよ最後の目的地である相模湖に向かう。勝沼ぶどう郷駅から相模湖駅までは「ホリデー快速ビューやまなし」に乗車する。今回は、2階席が満席だったということもあり、1階席に座った。1階席は、乗車口よりも低い位置にあり、線路が至近距離に見える。

発車すると、隣の甲斐大和駅で停車した。時刻表では、この駅は通過することになっている。しかし、列車は止まった。放送によると、特急列車の通過待ちをするとのこと。駅には止まるが、客扱い（ドアの開閉）をしないため、時刻表上では通過扱いにしている。臨時の快速列車は、中央本線のような「特急街道」（特急列車が頻繁に走る区間）では、定期特急列車の退避のため、客扱いしない駅でも停車することがある。

相模湖駅に到着した。山梨県内はやや晴れており、夕日が沈むのも見えたが、こちらはまだあいにくの雨であった。



写真左は、1階席からの車窓で、至近距離に見えるホーム、写真右は、相模湖の湖畔である。

今回は、相模湖が最後の目的地であり、みなさんとは、ここでお別れをする。あいにくの雨だったが、天気の良いときはもっと景色がいいでしょう。以前ここを訪れたときは、天気がよく、ボートで魚釣りをしている人も多く見かけた。

今回の旅では、旬のぶどうやワインの味を求めて山梨まで行ったが、いい味覚だったと思う。今度は、ぶどう以外の他のフルーツに関しても旬の味を求めて旅に出たいと思った。みなさんも、旬の農作物の味を求めて旅をされてはいかがでしょう？自宅では旬以外の季節に食べるものとはきっと違う、新鮮な味がするはずです。

完